



初心は是、後心も是

Beginner's Mind

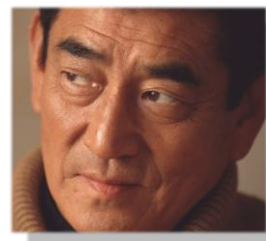
永田円了

初心には、三つのパターンがある；子供の初心、大人の初心、志（こころざし）の初心である。子供の初心は、汚れていない純真な心があり、大人の初心は、損得勘定に支配され、承認欲求が仕切る。そして、志（こころざし）の初心は、使命感に燃え、大義のある心が前提となって行動が生じる。

いずれの初心も、何かの行動に結びつく限りは、甲乙つけがたい。人はその時の状況、環境、価値観に基づいて自分の思いを行動に移す。矢沢栄吉の初心は、「金がほしい、有名になりたい」だった。往年の大スター高倉健さえ「はやく金がほしかった」と徹子の部屋で吐露した。キッカケはどうであれ、その行動の流れの中で、気づき（後心）が生まれたなら、これこそが、人生の宝物である。

ビギナーズマインド

ビギナーズマインド、日本語でいうと「初心」である。鈴木俊隆著『禅マインド ビギナーズマインド』の冒頭に、「ビギナーズマインドには、多くの可能性がある。しかし専門家と言われる人の心には、それはほとんどない」と述べている、なぜか。ロナルド・ハイフェッツ教授は、“なぜ専門家が失敗するのか”と問う講義の中で、「専門家は、問題を分析しやすい形に落とし込んで解決しようとする。それは問題から人間の要素を除いてしまうことになる」「結果、問題解決は技術的な要素となり、人々から見えなくしてしまう」と解説した（リーダーシップ白熱教室より）。



ビギナーズマインドは、“知恵と智慧”の比較によって浮き彫りにされる。知恵とは、その漢字が示す通り知識の恩恵をうけて備わってくるものであり、人の努力によって後天的に身につけるものである。一方“智慧”は、ある特定の能力のことで哲学のことでない。また学習で身につけるものでもない。“智慧”とは、心が何事も受け入れて、観察できるように待機している状態、頭の中のコップをいつも空っぽの状態にして物事を観る、この状態のことをビギナーズマインドという。

対置概念のない世界

人生に対する通常の見方は二元論的である。善悪、苦楽、自他、生死など、対象となるものがあって初めて、そのものの輪郭がわかる。一方ビギナーズマインドでは、物事は「二つではない」と考える。善も悪も“一つの出来事”、苦も楽も“一つの人生”生死も“命の様”と見るのである。

「今日は良い日だった」と一日の終わりにため息をつきながら言うのではなく、「ああ、今日一日が過ぎた」と、ニュートラルに言うのである。赤ちゃんが初めて寝返りをうつとき、「どうだ俺は成し遂げた、今日はいい日だ」と言うだろうか。生まれて数カ月の赤ちゃんの行動は、100%ビギナーズマインドで満たされている。

さて、人生いろいろな手垢でまみれた大人が、果たして赤ちゃんの心境に戻ることができるのだろうか。できる。無意識の中でぬくぬくと寄生する人間のエゴを、意識界の光にさらし手なすけるのである。先人の知恵と智慧を借りて。

<事例>

ヤザワ × イチロー NHK Music Special ～ 俺たちの失敗 ～ 2025/9/15

高倉健／俳優になった動機、「はやく金がほしい」 徹子の部屋

吉田松陰／「きみの志はなんじゃ。その志に大義はあるのか」

スティーブ・ジョブズ／「自分は禅僧になりたい。永平寺に行かせてください」

ロナルド・ハイフェッツ教授／なぜ専門家が失敗するのか

イチロー／「この流れは危ない、感性が置き去りにされている」情熱大陸より

渡辺謙／ゼロから積み上げる

鷲田清一／哲学するとは、自分自身の始まりを、たえず更新すること

赤ちゃん／初めての寝返り、そのままの感動、ビギナーズマインド

山田スズーニ／想いとコトバが一つになったとき、人の心を強く打つ

イタリア映画『道』／道ばたの石ころでも、何かの役にたっている

人間には2つの人生がある；気づく前の人生と、気づいた後の人生

歌・布施明 『シクラメンのかほり』

円了のホームページ: www.enryo.jp

